

## 震災遺構の定義と役割について

### 検討対象とする震災遺構とは

以下の3項目に当てはまるもの

- 被災の痕跡を残す構造物・建築物（必要に応じ地形，地層等も含む）
- 鎮魂，後世に向けて防災・減災に役立つもの
- 原則として，現地保存されるもの

### 震災遺構の役割（保存の意義）

#### ①鎮魂

震災で失われた人命の尊さ，被害を最小限に食い止める努力，復旧・復興に向かう姿勢など，見る人がそれぞれ震災について考え，長く記憶にとどめ続けることが鎮魂につながる。

#### ②災害文化の伝承

津波の恐ろしさを伝え，類似災害が発生した場合にどう対応すべきかを，日常的に思い起こし語り継ぐことを促す。

#### ③次世代への継承

被災地以外の地域や次世代の人々も含めた幅広い対象に，震災の脅威や教訓を伝え，防災意識の醸成を促す。

震災遺構の評価検討シート

対象施設	
------	--

【重要度の評価】 ※現地保存を前提として評価

項目	重要度の考え方	評価意見
歴史的価値	希少性 県内外に類似の遺構がない（少なくとも県内にはない）など、希少性が高い。	
	発信力 震災を象徴するものとして、様々な媒体に取り上げられるなど、県内外で広く認知されている。	
教育的価値	教訓 「津波を過小評価しない」「避難行動のあり方」「災害に対する日ごろの備えの大切さ」などの震災の教訓を、見る人に伝えている。	
	インパクト 見る人に対し、津波の破壊力や恐ろしさが、実感を伴って伝わる。	
	再現性 (伝わりやすさ) 外側から見ただけでも、施設の被災状況が確認でき、津波の脅威や被害の大きさが十分に伝わる。	
鎮魂	来訪者による鎮魂・祈りの場となっている。	

【その他特記事項】 ※学術的評価や配慮すべき事項など

★ 総合評価 ★

1. 震災遺構としてぜひとも保存すべき	
2. 条件が整えば震災遺構として保存することが望ましい	
3. 上記1, 2に該当しないもの	